

第 13 回 次世代の分散型電力システムに関する検討会 意見メモ

大阪大学・西 村 陽

○全体を通して、機器個別計測時、ひいてはリスト&パターン方式適用時のベースライン適用についてコメントしたい。

○今回、事務局資料 4 のガイドライン改定方針、資料 5 の機器個別ベースラインの検討方針を支持したい。特に機器個別についてリソースに適したベースラインについて事業者等から提案を受け付け、適正性を事業者、さらにその機器側にいるリソースの利用状況に知見を持つ製造事業者等と一緒に最適ベースラインをつくっていく姿勢は非常に重要である。

※現行多く使われている High 4 of 5 は、それなりに日本国内で合理性や継続性メリットがある反面、もともと PJM 等のエネルギー市場という特定の用途専用に使われているもの(容量メカニズムや需給調整力判定には使われていない)点も参考にすべき。

○当局への希望。資料 6 の特定計量利用は IoT ルートを使う、という方針が DER の業界(蓄電池や電気自動車の業界等)に広く・十分に知られていないのが実情。DER ビジネス側にもメリットのある話なので、情報の周知、次世代スマートメーターの利便性について広く PR するとともに特例計量器の量産・コストダウンについて官民一体となった取り組みを求めたい。

以 上